

園だより 11月号

2019年10月25日
中野区立ひがしなかの幼稚園
園長 若槻 容子
<http://nk-higasinakano-k.a.la9.jp/>

『異学年交流を通して』

副園長 青木 仁望

台風に翻弄された10月でしたが、雨が降っていない日の園庭では子どもたちの元気な声が響いています。運動会をきっかけに3、4、5歳児が入り交じって遊ぶ姿がより一層増えました。テラスでは、3歳児が4歳児のリズム「おまつりわっしょい」の音楽をかけては繰り返し踊りながら「セイヤ！セイヤ！」とかけ声をかけています。よく見ると、3歳児の前には4歳児のお姉さんが動きのモデルをしており、3歳児はその姿を見ながらうれしそうに踊っています。プールでは、運動会のバルーンと同じように作ったビニル製ミニバルーンを使って、4歳児が5歳児の動きをまねしています。すると、2階から見ていた5歳児がやってきて「次はこうやって手をピンとさせて…」と指南しに来る姿が見られています。どちらの場面でも「教えてくれてありがとう」「またやろうね！」というやりとりが自然に生まれていました。そして、園庭では4、5歳児が混ざってのリレー。こちら「バトンを渡して！」「次の人は出て」と5歳児が丁寧に教えています。年上のお兄さんやお姉さんの運動会の取り組みを通して感じた「あんな風になりたい」という憧れの気持ちが「自分もやってみよう！」と「新たな動きを引き出す原動力」となっています。また、下の学年の子どもに教えることで「他者の役に立つ喜び」や「自分の成長を実感すること」につながっていることを感じます。

いま、少子化の影響もあり年齢の異なる子ども同士で遊ぶ機会が減少しています。その中で、幼稚園生活は異年齢の子どもたちが共に暮らす場です。本園では、運動会や誕生会等の行事だけではなく、発達や時期に応じて、日常の遊びの中でも異学年が交流できる環境を意図的につくっています。今後も、学級の枠にとられない多様なかわりを通して、子どもたちに自己有用感や思いやりの気持ち、協調性などを育て参りたいと思います。

さて、今年は早くもインフルエンザが流行し始めたという報道がありました。ウイルスに負けない体をつくるためには、手洗い・うがいの励行の他、バランスのよい食事と規則正しい生活をするのが大事です。また、食べた食品が効率よく消化されるために、発酵食品を多く摂り腸内環境を整えることで、免疫力がアップするとも言われています。親子で体調管理をし、毎日元気に登園しましょう！

きせつのはなし「七五三」

七五三は子どもの健やかな成長を感謝してお祝いし、神社などに今後の幸せを祈願する行事です。

現在は満年齢で男の子は5歳のみ、女の子は3歳と7歳でお祝いするのが一般的です。この年齢でお祝いするようになったのは、平安時代に始まった「髪置きの祝い」「袴着の祝い」「帯解」という儀式が由来だと言われています。3歳で行う「髪置きの祝い」では、それまで剃っていた髪を伸ばし始め、5歳の「袴着の祝い」では初めて袴を履きました。7歳になると「帯解」といって、紐を使って着物を着ていた子が、大人と同じ帯で結び始めたそうです。

また、七五三では千歳飴を食べますが、これは千歳飴のように「長く」生きられますようにという長寿への願いが込められています。





<3歳児>○自分のしたい遊びをじっくりと楽しんだり、一緒にいたい友達とかかわったりして遊ぶ。

○身の回りのことを自分でしようとし、できたことを喜ぶ。

「オオカミさんのおうち作りたい」「アイスやさんしたい」と自分のやりたいことを見付けて、自分なりに作ったり動いたりして遊ぶ姿が見られます。その中で、友達と同じ家で過ごしたり、まねをして同じ物を身に付けようとしたりするなど、友達のしている楽しそうなことにも関心が広がってきました。それぞれが自分のやりたいと思ったことを十分楽しめるように、一人ひとりの思いを受けとめながら、同じ場にいる友達とふれ合ったり同じように動いたりする楽しさも感じていけるようにしていきます。

身支度や弁当準備などは、自分から取り組む姿が多く見られるようになりました。これからの季節は、袖をまくる、鼻をかむ、弁当を温める準備をする等が必要になります。励ましたり、できたことを認めたりしながら、引き続き自分でやろうとする気持ちを育てていきたいと思ひます。

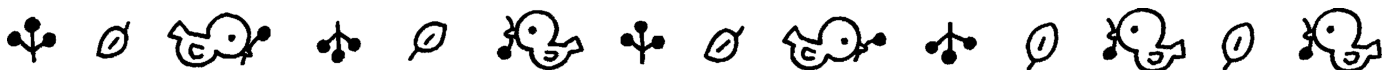


<4歳児>○友達とかかわって遊びながら、自分の思いを表したり相手の思いに気付いたりする。

○学級のみんなですることを楽しみ、友達の動きに目を向けながら自分の動きや力を出そうとする。

自分のサルの人形や牛乳パックの乗り物を動かしながら、「サルの公園を作ろうよ」「ロープウエーは順番にしよう」と、友達と一緒に場を作ったり、やりとりをしたりしながら遊ぶことを楽しんでいます。気の合う友達と遊ぶ中で、やりたいことやイメージが繋がって、自分たちなりに遊びを進めていけるように援助したいと思います。また、運動会を終えて、氷鬼や折り返しリレーなど共通のルールをもとに、いろいろな友達とかかわる姿も見られるようになりました。教師の橋渡しを受けて、自分なりに思いや考えを伝えたり、伝わったりする心地よさを感じられるようにしていきたいと思ひます。

学級のみんなで行う活動では、新しい鬼遊びや触れ合い遊び、楽器遊びなどを通して、友達の動きや音を感じたり、その中で自分なりの動きを出す楽しさを味わったりできるようにしていきます。



<5歳児>○自分の思いを出したり、相手の考えを受け入れたりしながら、自分たちで遊びを進めていこうとする。

○学級のみんなですることに見通しをもって取り組み、自分の力を出したり、学級のつながりを深めたりする。

「リレーやろうよ」「ゼッケンの○番が足りない」「誰か呼んでくるね」と自分たちでリレーを繰り返したり、「中に入れるトンネルを作ろうよ」「もっと大きくしよう」と友達とやりとりをしながら大型積木を運んで遊びの場を作ったりする姿が見られます。自分なりのめあてをもちながら、一緒に遊ぶ友達と刺激し合ったり、互いの考えを伝え合ったりして遊びを進めていけるように援助していきます。

『わくわくランド』に向けての取り組みでも、友達と共通のめあてをもって友達と考えを伝え合い、受け止め合いながら、素材を選んだり、より遊びが楽しくなるように工夫したりして、力を合わせて実現していく喜びを感じられるようにしていきます。そして、学級のみんなと一緒に取り組む中で、それぞれの頑張りを認め合いながら、気持ちを合わせて一つのことを成し遂げる満足感や達成感を味わえるように援助していきたいと思ひます。

